●新生児聴覚スクリーニングの流れ

まず出産される産科で説明を受けてください。
検査を希望される場合は，各産科にお申し込みください。

１．一次検査

生後２～４日に各産科で行います。
要再検(refer)の場合，二次検査に進みます。

２．二次検査

生後１ヶ月頃に，各産科，または地域の総合病院で行います。
要再検(refer)の場合，精密検査へ進みます。

３．精密検査

生後２～４ヶ月に，小児難聴の専門医療機関で行われます。
１度の検査で確定できない場合は，２～３ヶ月の間をおいて同じ検査を行います。

このスクリーニングは，
ご両親の自由意思に基づくものです。

新生児期にスクリーニングを受けなかった場合でも，その後，保健センター等市町村で行われる定期健診で相談することが可能です。また，より詳しい検査を行っている専門医療機関の紹介も可能です。

●検査の方法

一次，二次検査は簡単にできます。
赤ちゃんが眠っている間に行います。

OAE（耳音響放射検査）
一次検査，二次検査に用いられます。

AABR（自動聴性脳幹反応検査）
一次検査，二次検査に用いられます。

ABR（聴性脳幹反応検査）
精密検査に用いられます。

※ OAE とAABR の検査結果は，
「要再検refer」または「パスpass」
であらわされます。

要再検refer：より詳しい検査が必要
パスpass　：検査時点で難聴がない

●要再検 refer の場合

一次検査や二次検査で要再検 refer という結果が出たとしても，すぐに難聴と確定されるわけではありません。詳しい検査が必要ですので，必ず次の検査を受けて下さい。

●パス pass の場合

現時点では問題ありませんが、このスクリーニング検査では発見できない難聴（後迷路性難聴や，進行性難聴）である可能性は否定できません。
また，幼児期には中耳炎によるきこえの問題も多く起こります。裏面のチェックリストなどを参考に，各段階でチェックしてください。

●精密検査で難聴の診断が出た場合

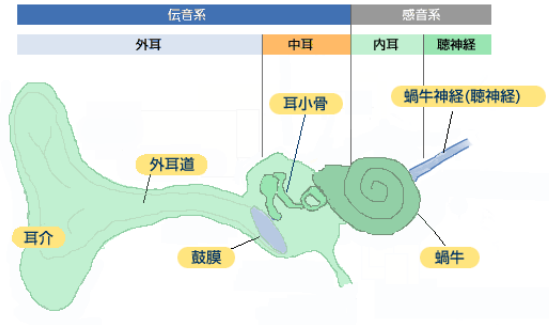
難聴は，早期から適切な療育・教育を受けることが大切です。精密検査を受けた病院から，必ず専門機関の紹介を受けて下さい。

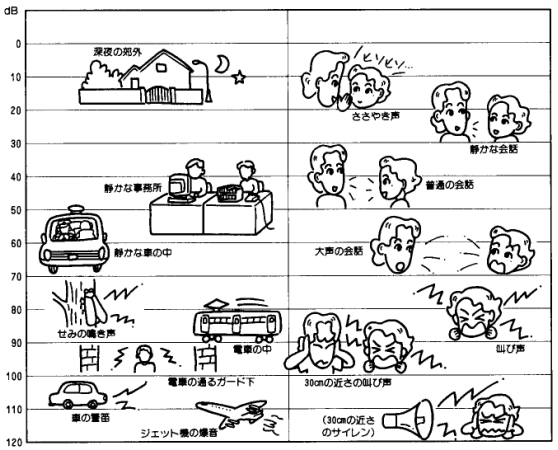
●検査や療育・教育についてのご相談は

検査や療育・教育についてのご相談は，各市町村の保健センターなどでもできます。

●難聴とは？

同じ「難聴」でもいろいろな種類や程度があります。耳の中のどこで障害が起こっているかによって症状は異なります。





金山・今井「きこえの世界へ」ぶどう社(1993)より

難聴の度合いは，「デシベル(dB)」という単位であらわされます。「デシベル(dB)」は，音の大きさの単位で，数字が大きくなるほど音が大きくなります。健聴の人は，一般に耳をすませば0dB くらいの音が聞こえます。たとえば「80dB の難聴」とは，「80dB より小さい音は聞こえないが，それ以上の音なら聞こえる」ということをあらわしています。

きこえの発達チェックリスト

【１ヶ月頃】

□突然の音にビクッとして手足を伸ばす

【３ヶ月頃】

□大きな音に驚く

【６ヶ月頃】

□音がする方を向く

【９ヶ月頃】

□名前を呼ぶとふりむく

【12 ヶ月頃】

□「バイバイ」のことばに反応する

□電話のベルの音（携帯電話も含む）に気づく

【１歳６ヶ月頃】

□絵本を見ながら「〇〇はどれ？」「〇〇はどこ？」などの問いかけに指さしで答える

一般社団法人　千葉県言語聴覚士会

私たちは、言語聴覚士の資質の向上と社会的地位の確立に努めるとともに、地域社会における保健、医療、福祉、教育の発展と充実に寄与することを目的に活動しています。

事務所

〒263-0042 千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾンK102

FAX：043-243-2524

赤ちゃんの

みみのけんさ

～新生児聴覚スクリーニングについて～

全世界の１０００人に１～２人の赤ちゃんが，両耳の難聴を持って生まれてきます。

赤ちゃんの難聴は，コミュニケーションやことばの発達などに大きく影響を与える場合があります。

新生児聴覚スクリーニングは，生まれつきの難聴を早期に発見して，できるだけ早い時期から専門的な療育を開始するために行われています。

一般社団法人千葉県言語聴覚士会

https://chiba-st.com/

２０１６年７月改訂